

人文学共通教育方法の充実に関する研究：人文学科 共通科目教科書の開発

高木, 彰彦
九州大学大学院人文科学研究院

<https://hdl.handle.net/2324/19903>

出版情報：2011-06-30. 九州大学高等教育機構教育改革企画支援室
バージョン：
権利関係：

平成22年度 教育の質向上支援プログラム(EEP)実績報告書

部局名	文学部		
申請者(部局長)	高木彰彦		
1. 取組の名称	人 文 学 共 通 教 育 方 法 の 充 実 に 関 する 研 究		
	(副題) 人文学科共通科目教科書の開発		
2. 取組実施担当者			
ふりがな 氏 名	担当学府・学部・職名	現在の専門	役割分担
高木彰彦	人文科学府長、文学部長、研究院長	地理学	代表者
高山倫明	人文科学府・文学部・教授、副研究院長	国語学	企画編集(総務)
後小路雅弘	人文科学府・文学部・教授、副研究院長	芸術学	企画編集(総務)
柴田 篤	人文科学府・文学部・教授	中国哲学史	企画編集(哲学)
吉原雅子	人文科学府・文学部・講師	倫理学	企画編集(哲学)
岩崎義則	人文科学府・文学部・准教授	日本史学	企画編集(歴史学)
清水和裕	人文科学府・文学部・准教授	イスラム文明史学	企画編集(歴史学)
小黒康正	人文科学府・文学部・教授	独文学	企画編集(文学)
静永 健	人文科学府・文学部・准教授	中国文学	企画編集(文学)
遠城明雄	人文科学府・文学部・教授	地理学	企画編集(人間科学)
中村知靖	人間環境学府・文学部・准教授	心理学	企画編集(人間科学)
3. 実施・評価・改善のための組織体制の活動状況			
(取組計画書の「実施・評価・改善のための組織体制」を転記のこと。)		活動状況(会議等の開催日、検討内容等)	
<p>人文学科共通科目は、カリキュラム委員会および実務者からなる人文学連絡会議によって企画運営がなされてきた(委員会組織再編により、本年度から学務委員会と人文学連絡会議が行う)。その経緯をふまえ、院長・副研究院長主導のもと将来計画委員会が本プロジェクトを統括し、学務委員会および人文学連絡会議が実務を担当する。また、自己点検評価委員会が評価の観点から支援する。</p>		<p>4月に、高木彰彦文学部長を代表者とし、2名の副研究院長および「人文学Ⅰ～Ⅳ」担当責任者(人文学連絡会議)を中心に11名の取組実施担当者を組織した。</p> <p>5月12日(水)、人文学連絡会議兼EEP新教科書編集会議開催。</p> <p>議題:1)新教科書の企画・編纂スケジュールについて、2)文学部FDの日程等について、3)公開講義の日程等について、4)その他</p> <p>6月16日(水)、文学部FD委員会と連携して第1回FDを開催(於101講義室)。企画編集(総務)担当の高山教授による公開講義を行った。昨年度試作版テキスト『人文学のα/Ω1 フィロロジーの射程』を使用。学内教員にも呼びかけ、丸野理事をはじめと</p>	

するEEP関係者の出席を得た。学生を含めた熱心な質疑応答があり、人文学の共通教育に関する議論を深める場となった。

6月23日(水)、人文学連絡会議兼EEP新教科書編集会議開催。

議題:1)新教科書の企画・編纂について、2)文学部FDの日程等について、3)部局の第二期中期目標・中期計画について、4)その他

7月6日(火)、人文学連絡会議兼編集委員会開催。

7月7日(水)、文学部教授会において次年度以降の人文学Ⅰ～Ⅳの新たなコンセプト、人員配置等を議論。

7月14日(水)、人文学連絡会議兼編集委員会開催。

議題:人文学科共通科目「人文学」の新編成について

7月20日(火)、人文学連絡会議兼編集委員会開催。

7月21日(水)、第2回文学部FD開催(於文学部会議室)。

報告1 「人文学科共通科目再編成のための資料集」について
担当者: 静永准教授、岡野教授、飯嶋准教授

報告2 2011～2014年度人文学科共通科目「人文学Ⅰ～Ⅳ」について
担当者: 高山教授(人文学連絡会議)

前年度に刊行した2冊の図書(『人文学のα/Ω 1 フィロロジーの射程』、『人文学科共通科目再編成のための資料集』)と資料を用い、平成23年度に刊行する予定のテキストの企画に向けた意見交換を行った。この結果、森平雅彦准教授を編集責任者として平成23年度「人文学Ⅰ」のテキスト『東アジア世界の交流と変容』の刊行に向けて作業を開始することとなった。

8月6日(金)、人文学Ⅰ『東アジア世界の交流と変容』執筆予定者全員による合同会議開催。

9月1日(水)九州大学出版会関係者を招いて編集会議。

11月8日(月)締切りで原稿依頼。

3月2日(水)、九州大学出版会担当者を交えた編集会議開催。表紙レイアウトその他。

3月28日(月)、『東アジア世界の交流と変容』完成、納品。これは23年度後期開講の「人文学Ⅰ」で利用する予定。

以上の活動については自己点検・評価委員会において評価を行った。

4. 取組に係る具体的な成果 (教員の意識向上等取組の波及効果等)

文学部では、平成12～13年度文部科学省助成「文学部の学部共通教育に関する研究・開発プロジェクト」において人文学のコアカリキュラム開発を主導し、他大学と連携して、池田紘一・今西祐一郎編『文字をよむ』および池田紘一・眞方忠道編『ファンタジーの世界』を九州大学出版会より出版した。

また、これらのテキストの刊行と同時に、人文学のコアカリキュラム開発を実践すべく本文学部のカリキュラム改革を試み、平成14年度より、既存の科目を再編して文学部コア科目を創設した。このうち、人文学科共通科目を構成する新設科目が「人文学Ⅰ～Ⅳ」であり、上述の『文字をよむ』はこの科目のテキストとして利用された。

本学の平成21・22年度教育の質向上支援プログラム(EEP)経費を利用した今回の取組「人文学共通教育方法の充実に関する研究」は、このプロジェクトで培われた精神を継承し、人文学の多様な学問領域に対応するとともに、諸分野の最新の研究成果を学生に還元するために、教育方法に関する研究を行い、新たなテキスト開発に着手するものであった。「人文学Ⅰ～Ⅳ」では、『文字をよむ』の精神を継承しつつ、今年度までに授業用の簡易テキストとして『近代日本の人文学』『東アジアの交流史』『心と社会をはかる・みる』の3冊をすでに刊行しているため、本取組では、これら4冊の内容を刷新し、より密度の濃い統合型テキストの構築を目指した。

平成21年度は、柴田文学部長を代表者とする6人の取組担当者によりプロジェクトを実施した。まず、平成21年度開講「人文学Ⅰ・Ⅱ」のテキストとして『文字をよむ』『近代日本の人文学』の改訂版を刊行した。次いで、各教員に講義概要や配付資料の提供を依頼し、その結果を『人文学科共通科目再編のための資料集』として刊行するとともに、寄せられた講義概要や資料を踏まえて統合型テキストの試作版として『人文学の α/Ω 1 フィロロジーの射程』を刊行した。同書は平成22年3月に行われたEEPの実績評価ヒアリングでも高い評価を得た。さらに、これらの刊行物を用いたFDを開催して、本プロジェクトに対する文学部教員の認識を深めるとともに、次年度における統合型テキスト刊行に向けたモチベーションを高めた。

平成22年度は、4月に文学部長に就任した高木教授を代表者として、2名の副研究院長および「人文学Ⅰ～Ⅳ」担当責任者から成る人文学連絡会議のメンバーを加えた合計11名の取組実施担当者によってプロジェクトを継承・発展させた。まず、5月に人文学連絡会議を開催して今年度以降の「人文学」の企画について意見交換した。次いでFD委員会と連携して、6月に本年度第1回FDとして、高山教授が『人文学の α/Ω 1 フィロロジーの射程』を用いて公開講義を行った。公開講義は学内の教員にも呼びかけて実施し、丸野理事をはじめとするEEP関係者も出席され、概ね好評であった。さらに、前年度刊行した2冊の図書と資料を用いて、7月に第2回FDを実施し、平成23年度に刊行する予定のテキストの企画に向けた意見交換を行った。この結果、平成23年度「人文学Ⅰ」のテキスト『東アジア世界の交流と変容』の刊行に向けて作業を開始し、平成23年3月28日に刊行することができた。同書は平成23年度後期に開講される「人文学Ⅰ」のテキストとして利用される予定である。

以上、2年間かけた本取組において、これまで培ってきた人文学コアカリキュラム開発の取組を継承するとともに発展させることができた。既存の「人文学Ⅰ～Ⅳ」における成果を踏まえ、FDや公開授業を実施することによって、各教員の人文学コアカリキュラム開発に対する認識を深めるとともにモチベーションを高め、新たな統合型テキストの刊行にこぎつけることができた。ともすれば、個別の専門分野に閉じこもりがちな文学部の教員のなかに、こうしたディシプリン横断型の教育・研究成果を指向する雰囲気醸成されたことは、本文学部においてきわめて大きな意義を有する。次年度以降も引き続きEEPに申請し、「人文学Ⅰ～Ⅳ」で用いるテキストの刊行に向けた取組を継続したい。